

# 動物に対する新しいタイプの抗癌剤の治験に関する公募のお知らせ

院長 東條雅彦

特に標的とする腫瘍：髄膜腫以外の脳腫瘍、乳腺癌・肛門のう腺癌などの肺転移・脳転移症例  
外科切除不能の肝細胞癌、薬剤耐性になってしまったリンパ腫

はじめに、悪性腫瘍である癌や肉腫のほとんどの死因は脳や肺、肝臓などの主要な臓器の転移が原因となっております。これがまさに、転移を制するものは癌を制すると言われるゆえんであります。

そこでこの転移した癌細胞組織を破壊しようと抗癌剤を使用するのですが、癌の組織は健康な組織と構造上大きな違いがありなかなか癌細胞に薬がうまくとどきません。

一例を挙げると、癌自身が無限に大きくなろうと引っ張り込んだ普通の血管と大きく構造の異なる急ごしらえの腫瘍血管などが、よい例です。口から、あるいは血管から投与した抗癌剤が血流によって体内に入っても腫瘍血管のせいで腫瘍組織内に薬がうまく留まらず、かえって他の正常組織がダメージを受けてしまうのです。

そこで腫瘍組織に選択的に薬を留まらせるため産まれたのが、高分子型抗癌剤 P-THP（高分子結合ピラルピシン）という今回の治験に用いる薬です。これは、DDS（ドラッグデリバリーシステム）と呼ばれるハイテク技術で、抗癌剤をより癌細胞にだけ取り込ませるように工夫された構造をもつ薬です。

日本ではペットも人間同様、高齢化し同様に死因の割合のトップに癌が挙げられています。

令和の時代になっても、脳・肺・肝に転移巣が見つかったとき極めて有効であるという薬がないのが、今の獣医療の現状です。今回の治験薬は、人間の治験が先行し副作用が極めて少ないことがわかっております。

ですが、人間の寿命はペットと比べて長く、結果を出すのに時間がかかり過ぎるという欠点があります。それに比べ犬や猫の平均寿命は、15年前後と短く悪性腫瘍の転移巣を持つ症例はほとんどが1年以内に死に至ってしまいます。

## 〈治療期間および方法〉

▶ 治療期間は約 2 ヶ月と短く、2 週間間隔で計 4 回静脈投与するだけです。

治療効果判定は治療前、治療後に血液検査及び、超音波検査やレントゲン検査を計 2 回行います。



## 〈費用について〉

▶ 初診料、再診料、血液検査代、画像検査代は頂きますが治療費はかかりません。治療に対する同意書は取らせていただきます

▶ 病理検査、血液検査などの結果がわかる診断書がございましたら、前もって FAX を送っていただくか  
予約日当日にご持参ください

## 〈おわりに〉

▶ 獣医療のみならず人医療の大きな発展、人と動物の未来に夢と希望を与えるためにぜひ参加をお願いいたします。